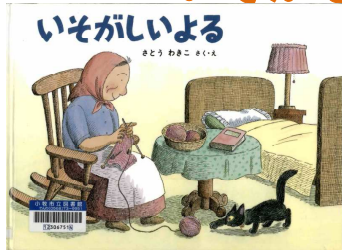


いそがしいよる



さとうわきこ／さく・え
福音館書店
E/P

ていがくねんむ
低学年向け

星がきれいなよるに、ばばあちゃんはへやにいるのはもったいないと、ゆりいすを外にもちだします。おつきさんもでてきたので、いっそのこと外でねれば一晩中ながめていられると思いつき…。ばばあちゃんのゆかいでいそがしい夜がはじまります。

9月18日「敬老の日」にちなんで、楽しいおばあちゃんのおはなしはいかがですか？

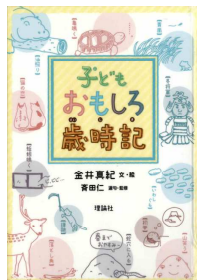
月のボールであそぼうよ



エド・フランク／作
ター・チョンキン／絵
鶴木桂／訳
徳間書店
949／フェ

ある晩、なかよしのパンダとリスがはしごにのぼってお月さまをとろうとする表題のお話のほか、6篇の短いお話が入っています。ふたりは毎日、笑い転げたり、ぴったりくっついて寝たり。ときにはけんかもするけれど、いざというときはお互いに相手のために一生懸命。ふたりの関係に、ともだちっていいな、とほのぼのとした気持ちになります。

子どもおもしろ歳時記



金井真紀／文・絵
斉田仁／選句・監修
理論社
911／カマ

ちゅうがくねんむ
中学年向け

俳句で使う季語(季節を感じられることば)を集めた辞書のような書物を歳時記といいます。この本では、子どもにもわかりやすく、イラストとともにたくさんの季語が紹介され、子どもが見つけた俳句なども例としてとりあげられています。「すいか」って秋の季語なんだ！など、意外な発見も。俳句をつくってみたいくなるのはもちろん、よみものとしても楽しめます。

ぼくんちのねこのはなし



いとうみく／作
祖敷大輔／絵
くもん出版
913／イ

つい先日まで元気いっぱいだった飼い猫の「こたら」。いつの間にかごはんを食べなくなっていた。「ぼく」たちは、検査、治療、医療費と、一つひとつの決断を迫られる。少しずつ弱っていく「こたら」を前に、家族はどう判断するのか。大切な飼い猫を最後まで愛情深く見守る家族の姿を通して、身近な命について考えるきっかけになるお話です。

万葉と令和をつなぐアキアカネ



山口進／写真・文
岩崎書店
486

こうがくねんむ
高学年向け

太古の昔から日本で親しまれてきた赤とんぼ(アキアカネ)。今では絶滅が危惧されていますが、新潟の常蔵さんの田んぼでは毎年アキアカネが大量に羽化すること。常蔵さんの田んぼの秘密とは？著者は古事記や万葉集にまでさかのぼり、その謎に迫ります。自然とともに生きることの大切さ・素晴らしさを改めて知ることのできる一冊です。

彼の名はウォルター



エミリー・ロッドダ／作
さくまゆみこ／訳
あすなる書房
933／ロエ

遠足の途中、乗っていたバスが故障して、近くの古い空き家やいちゃすで一夜を過ごすことになった先生と4人の生徒たち。そこは、奇妙な口笛や揺れる暗い影が支配する幽霊屋敷だった。机の引き出しの奥深く、隠すように仕舞われていた一冊の本を通して知る、知られざる過去の秘密とは。物語の世界と現実がクロスする展開が魅力のミステリー。